



とうま明男の「県政人語」Vol.6

神奈川県議会議員(茅ヶ崎) 2016年 (通算46号)



震災で家族を失った主婦たちで生活のために立ち上げたNPO南三陸町ミシン工房の熊谷代表から説明を受けるライオンズクラブのメンバー

想定外の大震災といわれた東日本大震災から五年が経ちました。国も復興への努力をしていると思いますが、現実はまだまだ厳しく、被災地では未だ避難生活者が多数いると聞いています。国は今後も復興予算として約四兆円を計上していますが、避難所生活を送っている人は今も六万人いるといわれており、この神奈川にも三千人が避難生活を送っています。私は所属している茅ヶ崎のライオンズクラブで、被災地である宮城県南三陸町に毎年訪問しています。人口二万五千人の町で地震発生当時二千人以上いた仮設住宅住民が未だ千人もいるのが現状で

東日本大震災から5年が経ちました。まだまだ復興ができていない現状があります。

す。大震災の深い爪痕を実感できる現実です。

神奈川県は二十八年三月に地震防災戦略を見直しました

大正の関東大震災から一〇〇年近くが経ちました。神奈川県では「大正型関東地震」「南海トラフ巨大地震」「東海地震」など、いつ起きてもおかしくない状況にあり、「大正型関東地震」が再び起きれば、死者三万人、負傷者五十万人を超えるという予想が出ております。(裏面参照)

神奈川県では、県民の安心安全を向上させる観点から今までの地震防災戦略を改定し、より防災減災に向けた具体的な取り組みを強化しました。新地震防災戦略では、津波予想の見直しや、新たに箱根大涌谷の火山活動などを視野に入れ、より精度が高く実行性がある防災対策を作成しました。

茅ヶ崎では相模川の護岸工事が急務

私たちの茅ヶ崎市では、関東大震災時に相模川や支流の小出川などを津波が



茅ヶ崎西部に住む人々から完成を望まれている相模川左岸築堤護岸工事

遡上し、茅ヶ崎市の西部地区が浸水したという記録が残っています。万が一の大地震の時に、茅ヶ崎市の被害を減災するには、遅れている相模川左岸(茅ヶ崎、寒川側)の築堤護岸工事が急務です。築堤護岸工事が遅れている中で、国の二十七年度の最終補正予算で約一億五千万円の予算がつかまりました。しかし、この金額ではまだまだ工事は完了しません。

昨年四月の選挙で、私とうま明男が公約に挙げた相模川の築堤護岸工事を早期に完成させるため、これから国・県に働きかけていきます。

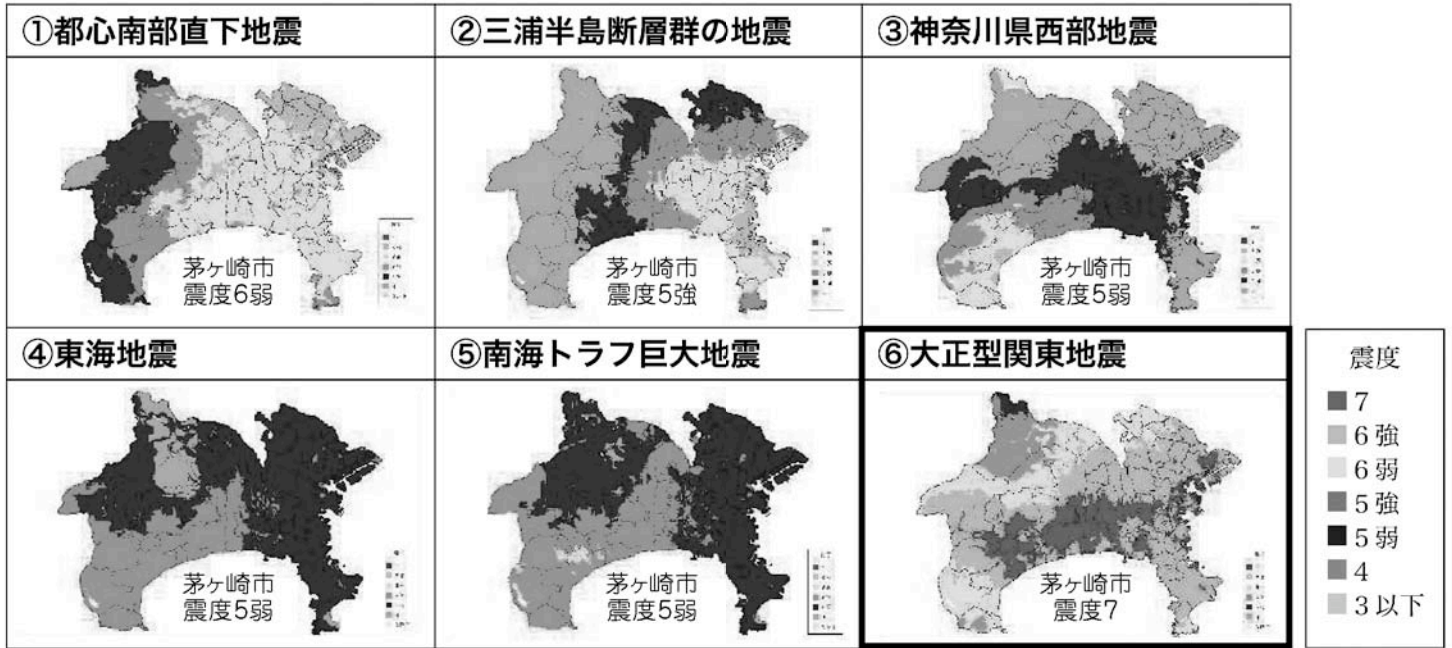
東日本大震災の教訓を風化させないようにしましょう。

みなさんご存知ですか？

東日本大震災の発生を受けて、国では、南海トラフ巨大地震、首都直下地震の被害想定を実施しました。国の新たな知見を踏まえ、本県では平成25～26年度の2ヵ年をかけて、地震被害想定調査を実施しました。

シリーズ(6)

想定地震の震度



主な想定地震の被害量(冬18時想定)

想定地震	死傷者数 (人)	建物被害 (棟)	焼失棟数 (棟)	経済被害 (兆円)	発生確率
①都心南部直下地震 (Mw7.3)	死者 2,990 重傷者 13,390	全壊 64,500 半壊 221,250	37,600	15.1	(南関東地域のM7クラスの地震が30年間で70%)
②三浦半島断層群の地震 (Mw7.0)	死者 1,130 重傷者 5,400	全壊 22,710 半壊 88,170	11,980	5.1	30年以内 6~11%
③神奈川県西部地震 (Mw6.7)	死者 880 重傷者 900	全壊 5,000 半壊 20,530	710	0.9	(過去400年の間に同クラスの地震が5回発生)
④東海地震 (Mw8.0)	死者 820 重傷者 380	全壊 3,620 半壊 14,450	0	1.0	(南海トラフの地震は30年以内70%程度)
⑤南海トラフ巨大地震 (Mw9.0)	死者 1,740 重傷者 530	全壊 7,360 半壊 20,110	0	1.4	(南海トラフの地震は30年以内70%程度)
⑥大正型関東地震 (Mw8.2)	死者 31,550 重傷者 56,200	全壊 393,640 半壊 410,160	169,780	48.9	30年以内 ほぼ0%~5% (200年から400年の発生間隔)

県政、市政報告会・相談会のご案内

日時 3月26日(土) 10時~12時

場所 茅ヶ崎市民文化会館3階第1会議室

相談員 神奈川県議会議員 とうま明男

茅ヶ崎市議会議員 花田まこと

茅ヶ崎市議会議員 藤村ゆかり

※お気軽にお越しください。